

# 公益財団法人京都伝統産業交流センター

## 第1 法人の概要

### 1 代表者

理事長 田中雅一

### 2 所在地

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1 京都市勸業館内

### 3 電話番号

075-762-2690

### 4 ホームページアドレス

<http://fpkti.or.jp>

### 5 設立年月日

昭和52年3月29日

### 6 基本財産

11,000千円（うち本市出えん額5,000千円、出えん率45.5%）

### 7 事業目的

伝統産業の啓発及び振興に関する事業を行い、地域経済の発展と生活文化の向上に寄与すること。

### 8 業務内容

- (1) 京都市勸業館常設展示場の運営協力
- (2) 伝統産業に関する振興及び啓発事業

### 9 所管部局

産業観光局クリエイティブ産業振興室（TEL075-222-3337）

### 10 役員名等

#### (1) 理事長

田中雅一

#### (2) 副理事長

舞鶴一雄

#### (3) 専務理事

後守祐二

#### (4) 理事

森俊次、山田容永、米原有二、雁瀬博、高木陽介、中村清斉、山口薫

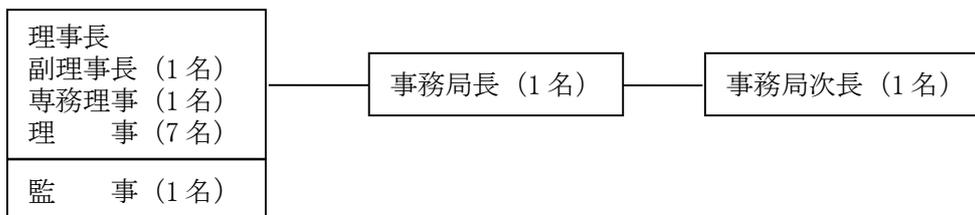
#### (5) 監事

松田聖

### 11 職員数

常勤職員数2名（うち本市派遣職員2人）※常勤役員1名、人材派遣1名を除く。

### 12 組織機構



第2 目標及び実績

1 業務面

(1) 目標及び実績

目標 「持続可能な伝統産業の実現に向けた取組の推進」	
令和5年度の目標	伝統産業の生産組合との繋がりを基礎とした公益法人として、生産組合等と協働した伝統産業振興事業や業界支援を展開する。未来の担い手・作り手の育成や、他ジャンル、時事問題とコラボした伝統産業製品の生活回帰・定着の促進など、持続可能な伝統産業の実現に向けた取組を生産組合等との連携事業等を実施しながら進めていく。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	伝統産業の振興に向けて、生産組合や事業者と協働し、公益法人として長期的な視点で、事業展開・業界支援を行っていく。具体的には、未来の担い手・使い手の育成事業として、子どもを対象とした制作体験等を通して、伝統産業を身近なものとして感じ、学んでいただくほか、京都の文化やSDGs等の時事問題、他ジャンルとのコラボによって、伝統産業の更なる魅力向上に繋がる事業を生産組合等と共に実施する。

指標	財団主催や生産組合等を支援した伝統産業活性化に係る 展示会・イベント等実施数						(単位：回)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			263	170	172	180		100

指標	未来の担い手・使い手育成に係る事業への子どもたちの参加人数						(単位：人)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			2,333	1,700	3,308	1,800		2,000

(2) 事業実績（令和4年度）

ア 伝統産業に関する振興及び啓発事業

(ア) 未来の担い手・使い手の育成に関する取組

a 子どもたちの伝統産業・伝統工芸体験事業【参加者数：3,308人】

市内の児童館、公共施設、教育・学習施設、商業施設などに加えて、令和4年度からは、和の文化・和のしつらえを感じられる施設も実施会場として、次代を担う子どもたちを対象に、伝統産業の生産組合等と連携し、職人の指導のもと、伝統産業・伝統工芸の制作を体験していただく事業を実施した。

b 学校における伝統産業授業の活性化支援【実施回数：6回】

学校における伝統産業授業の活性化を支援するため、伝統産業について学ぶ授業への講師派遣や工房訪問のプログラムのコーディネートなどを実施した。

(イ) 伝統産業製品の生活回帰、定着の促進に関する取組

a 「匠ふれあい事業」による職人派遣【派遣人数：100人】

京都市内外の MICE 関連などのイベントの主催者等からの依頼に応じて、伝統産業に従事する職人を派遣し、制作実演などを行い、伝統産業への関心喚起、理解促進を図った。

b 他ジャンル、時事問題とコラボした周知・啓発事業

【ワークショップ実施回数：34回、その他イベント実施回数：4回】

伝統産業が今日的なニーズや課題に対応し、人々の生活に入り込み、定着することを促進するため、文化・観光分野のコンテンツや SDGs、脱プラスチック、脱 CO<sub>2</sub> などの時事問題とコラボレーションしたワークショップやセミナーを開催した。

(ウ) 作り手等が行う伝統産業活性化の取組支援に関する取組

行政からの補助金等の情報の生産組合等への提供、イベント等における伝統産業製品の販売機会の創出、生産組合等が実施する展示会の開催支援などを実施した。

イ 京都市勧業館常設展示場（京都伝統産業ミュージアム）の展示事業

令和3年度から京都市勧業館常設展示場（京都伝統産業ミュージアム）の施設の管理・運営業務は京都市勧業館指定管理者が行っているが、伝統産業の生産組合等との繋がりを基礎とした当財団として、各生産組合等と連携しながら、京都市の伝統産業製品74品目を紹介する74 CRAFTS WALL などにおける作品の出品、解説への協力を行った。

## 2 財務面

### (1) 目標及び実績

目標 「公益法人としての健全な財政運営」	
令和5年度の目標	公益法人である特性を生かした寄付金や助成金、委託費等の外部資金の獲得に努めるとともに、WEBの活用や無駄を省いた効率的な運営を行うことにより、公益事業を着実に実施しつつ、収支の均衡を図る。
令和5年度の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	寄付金や助成金、委託費等の外部資金の獲得に努めるとともに、WEBの活用や無駄を省いた効率的な運営を行うことにより、公益事業を着実に実施しつつ、収支の均衡を図る。

指標	正味財産増減額の均衡						(単位：千円)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		△40	0	3,838	0		0	

主要財務数値								(単位：千円)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	予算	実績	予算	実績	予算	実績 (※)	予算	実績 (※)	
経常収益	29,038	40,775	27,490	42,373	27,063		27,136		
経常費用	29,038	40,815	27,490	38,535	27,063		27,136		
当期経常増減額	0	△40	0	3,838	0		0		
当期正味財産増減額	0	△40	0	3,838	0		0		
資産合計	-	39,349	-	42,114	-		-		
負債合計	-	7,848	-	6,775	-		-		
正味財産	-	31,501	-	35,339	-		-		
うち累積損益額	-	20,501	-	24,339	-		-		

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R3 決算	R4 決算	R5 決算 (※)	R6 予算
委託料	京の「匠」ふれあい事業	3,000	3,000		3,000
	新たな伝統産業振興事業	16,992	16,992		16,992
	「京ものユースコンペティション」に係る企画・運営業務	1,000	-		-
補助金	京都市伝統産業振興事業補助金	6,935	-		-
	京都市伝統産業未来構築事業補助金	-	7,377		6,523

### 3 組織面

#### (1) 目標及び実績

目標 「運営体制の適正化」	
令和5年度の目標	効率的な運営や、関係機関と連携した取組を一層充実させることにより、少人数でありながらも公益事業を着実に実施する運営体制を構築し、適正な職員数で業務を遂行する。財務の改善や業務の効率化に取り組んでいるところであるが、外部資金の獲得による財団固有職員の雇用、ノウハウの蓄積を目指し、将来的に自立した運営体制の確立に繋げる。
令和5年度の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	効率的な運営や、関係機関との連携により、少人数体制で事業を充実させていくとともに、財務改善や業務効率化により、財団固有職員の雇用、ノウハウ蓄積を目指し、自立した運営体制の将来的な確立に繋げる。令和6年度は、文化庁委託事業に係る上限額の見直しに伴い、委託金収入が減額する見込みであるため、新規の寄付金等の獲得を実現させる。

指標	外部資金の獲得額 (京都市を除く)						(単位：千円)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			12,268		14,723	9,000		6,500

### 第3 令和5年度の経営評価（令和4年度の経営状況に対する評価）

#### 1 所管局による評価

財務面	<p>当期正味財産増減は約 380 万円のプラスとなったが、翌年度以降の事業費に充てる方針である旨確認しており、公益法人として財務状況の健全性を維持しつつ、公益事業を着実に実施していると認められる。</p> <p>自己資本比率は 84%であり、負債の割合が比較的少なく、ストックベースの財務状況は健全であると言える。</p> <p>流動比率は 378%であり、当面の資金繰にも問題がないと言えるが、今後新たな外部資金を獲得するよう努め、持続可能な京都の伝統産業の実現に向けた取組を推進するべきと考える。</p>
事業面	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が続くなかではあったが、文化庁からの外部資金を獲得し、小中学生を対象とした伝統工芸体験事業を目標以上に開催するなど、自己資金で効果の高い事業を実施できた点は評価できる。</p> <p>令和5年度は文化庁からの補助金が大幅に削減されたことを踏まえ、持続可能な形で子ども向け体験事業を実施する体制を整えられるよう、あらゆる資金獲得の方法を検討し、京都の伝統産業 74 品目全ての業界団体とのネットワークを有する唯一の公益財団法人として、工夫していくことが必要と考えられる。</p>

#### 2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>令和4年度は、イベント等の実施数や子どもたちの担い手育成事業の参加者数が目標を上回るとともに、外部資金の獲得等に取り組み、正味財産増減額を黒字化した点は、評価できる。</p> <p>伝統産業の振興を更に進めるためには、財団の強みである業界とのネットワークを生かし、企業等から更なる寄付や会費を獲得するなど、新たな仕組みを構築し、未来の担い手づくりなどの施策につなげていただきたい。</p>
---